

せて「如是我聞」と唱させ給しは、妙法蓮華經の五字は一部八卷二十八品の肝心にあらずや。されば過去の燈明仏の時より法華經を講ぜし光宅寺の法雲法師は、「如是とは將に所聞を伝えんとして、前題に一部を挙ぐるなり」等云云。靈山にまのあたりきこしめしてありし天台大師は、「如是とは所聞の法体なり」等云云。章安大師云、「記者釈して云く、蓋し序王とは經の玄意を叙し、玄意は文心を述べ」等云云。此釈に文心者題目は法華經の心也。妙樂大師云、「一代の教法を収むること、法華の文心より出ず」等云云。天竺は七十箇国なり。摠名は月氏国。日本は六十箇国、摠名は日本国。月氏の名の内に七十箇国乃至人畜珍宝みなあり。日本と申す名の内に六十六箇国あり。出羽の羽も奥州の金も、乃至、国の珍宝人畜、乃至、寺塔も神社もみな日本と申二字の名の内に撰れり。天眼をもつては日本と申二字を見て十六国乃至人畜等をみるべし。法眼をもつては人畜等の「此に死し彼に生る」をもみるべし。譬へば人の声をきいて体をしり、跡をみて大小をしる。蓮をみて池の大小を計、雨をみて竜の分ぎをかんがう。これはみな一切の有りことわりなり。阿含經の題目には大旨一切はあるやうなれども但小釈迦二仏ありて他仏なし。華嚴經・觀經・大日經等には又一切有やうなれども、二乗を仏になすやうと久遠実成の釈迦仏なし。例せば華さいて菓ならず、雷なつて雨ふらず、鼓あて音なし、眼あて物みず、女人あて子をうまず、人あて命なし、又神なし。大日の真言・藥師真言・阿弥陀の真言・觀音の真言等又かくのごとし。彼の経々にしては大王・須弥山・日月・良藥・如意珠・利劍等のやうなれども、法華經の題目に対すれば雲泥勝劣なるのみならず、皆各々当体の自用を失ふ。例せば衆星の光の一日輪にうはは